木材相場

木材価格市況標準相場

令和８年10月１日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目　　なし

(2) 値下げ品目　　4

合　　板　　4

○今月の市況動向

９月の商況は、依然として荷動きが低調で、秋需の本格的な回復には至っていない。一方、産地では原木不足や生産コストの上昇が続き、仕入価格と販売価格の乖離が課題となっている。大手ビルダー向けの需要は堅調であるものの、販売店ルートとの二極化が鮮明になっている。

（国産材）原木事情については、全国的に雨天が多く、スギ、ヒノキともに伐採量が伸び悩み、価格は引き締まった状態で推移した。また、吉野材においても、出材量が例年に比べて大幅に減少しているとの報告があった。

（輸入材）SPF材の９月積み契約価格が小幅なドル価上昇で決着したものの、円高の影響により円価では値下がりとなった。現地の減産や船積みの遅延から国内在庫は減少し、一部で欠品が生じている。米材製品も入出荷ともに低調ながら、出荷が入荷を上回り在庫は減少した。特に米松105角は品薄となっており、現地の原木価格や生産コストが高止まりする中、国内では価格転嫁が進まず、厳しい採算状況が続いている。役物製品、広葉樹においても同様に、コスト上昇分を販売価格に転嫁できず、厳しい状況が続いている。

（合板）値下がり品目となった国内針葉樹合板では、８月の生産量が19.3万㎥、出荷量が16.9万㎥と、生産が出荷を上回り、在庫量は20万㎥まで増加した。輸入合板においても、８月の入荷量は18.2万㎥と前年同月比16.3％増加し、主要港の倉庫では満床状態が続いている。